

会議の名称	都市再生整備計画（木田駅周辺地区）評価委員会
開催日時	令和8年1月20日（火） 午前10時00分～午前12時00分
開催場所	あま市役所 2階 A2会議室
議 題	都市再生整備計画（木田駅周辺地区）事後評価について
出席委員	大同大学 大学院工学研究科 建築学部 教授 嶋田喜昭委員（委員長） あま市木田駅周辺まちづくり協議会 会長 杉本公夫委員 木田第1区長（代表区長） 川口正起委員
欠席委員	0人
出席者（事務局）	都市計画課：野村課長、山田主幹、後藤課長補佐、川内係長、山田係長
傍聴人の数	0人
<p>会議の経過（議事要旨）</p> <p>次第4.事後評価制度の概要及び「木田駅周辺地区」におけるまちづくりの経緯について （事務局より説明）</p> <p>質疑応答 （委）評価委員 （事）事務局（都市計画課）</p> <p>（委）都市再生整備計画が（第2回変更）とあるが、変更内容は。 （事）事業内容・工事箇所の変更はなく、事業費について当初計画では概算であったため、事業の進捗状況に伴い、より精度の高い概算金額に変更した。</p> <p>（委）変更金額は。 （事）約1億円の増額となった。</p> <p>（委）国からの補助は事業費の4割か。 （事）制度上4割以内とされており、実際4割を下回っている。</p> <p>（委）駐輪場の整備内容は。 （事）既存の駐輪場と同様、野天駐輪場で駐輪部分を区画線標示する。</p> <p>（委）区画線標示だけでは、無秩序な駐輪をされる可能性があり、その対策としての管理方法は。 （事）既存の駐輪場と同様、駐輪場の所管課にて管理業務委託による管理を想定している。</p> <p>（委）ラックを設置することで、綺麗に駐輪してもらえるのではないのか。 （事）ラック設置により、自転車1台当たりの駐輪必要面積が大きくなり、駐輪可能台数が減ってしまうため、区画線標示とした。</p> <p>次第5.議題</p> <p>（1）事後評価手続きに係る審議 （事務局より説明し、修正なし。審議内容は妥当と判断。）</p> <p>質疑応答 （委）評価委員 （事）事務局（都市計画課）</p> <p>（委）資料3 5頁 市道木田駅前線整備（ポケットパーク含む）に幅員W=20mとあるが、この部分に駐輪場が含まれているのか。また、どこまでが駐輪場となるのか。 （事）資料2 12頁の図で示している範囲。</p>	

(委) 駅から距離が遠くなるため、利用されないのでは。

(事) 既存の駐輪場と合わせて、管理・運営方法を検討している。

(委) 木田地区排水基本計画の降雨強度と、調整池の整備状況は。

(事) 木田地区排水基本計画における降雨強度は 56mm/時間。調整池整備状況は、計画する約 22,000 m³のうち、今回整備した 2,000 m³を含む約 8,000 m³が整備済。

(委) 資料 2 10 頁 課題 4、5 を受けて目標 3 を設定し、それに対する指標を、指標 3 のまちづくり活動参加人数としているが、課題 4 の地域コミュニティの結束という部分に結びついているのか。

(事) 木田地区の伝統行事「山車揃え」には、多くは旧住民が参加しており、近年、区画整理事業などにより増加した新住民の地域行事への理解と参加を促すため、「きだのれきし」を作成、「山車揃え」に併せた駅前マルシェの実施などにより、地域活動への参加者が増加し地域コミュニティの結束に結びついていると評価している。

(委) 今後、「木田地区まちおこし委員会」という組織により、マルシェが継続されるのか。

(事) その予定。

(2) 今後のまちづくりについての審議

(事務局より説明し、意見に基づき評価シート修正。審議内容は妥当と判断。)

質疑応答 (委) 評価委員 (事) 事務局 (都市計画課)

(委) マルシェの開催頻度は。

(事) 年 1 回。

評価シートの修正及び各種調整事項については、委員長一任で同意を得た。

以上